

森林との共生に取り組む人

県内では多くの方々が森林を守り・育て・活かす「森林との共生」に取り組んでいます。



持続可能な林業経営を進める林業家 望月 英光さん（静岡市葵区）

環境と経済が調和する持続可能な森林経営を目標に、先代、先々代から受け継いでいる所有林を計画的に管理しています。また、自ら施業を行うことができない所有者の森林管理も引き受けることで、地域の森林環境保全に貢献しています。

こうした取組が評価され、令和2年度全国林業経営推奨行事において、農林水産大臣賞を受賞されました。

県立森林公園の魅力伝える自然解説員

瀬下 亜希さん（浜松市北区）

県立森林公園ビジターセンター「バードピア浜北」のチーフ自然解説員として、季節に合わせ五感で楽しめる展示や自然体験イベントを企画し、来園者に提供しています。

カエル、トンボ、野鳥など「公園の匂が一目で分かる」企画展示は、四季折々の変化を感じられると、大変好評を博しています。

また、ツイッターなどでリアルタイムに鳥や植物の情報を発信するなど、森林公園の豊かな自然の魅力を伝えています。



本業の傍ら森林保全活動を行う熱海キコリーズ代表 能勢 友歌さん（熱海市）

多種多様な本業の傍ら熱海で森林保全活動を行う、NPO法人熱海キコリーズの代表を務めています。

平日は都内の企業で勤務し、週末は熱海の市有林で森林保全活動を行う、二拠点生活を送っています。

間伐材の活用や森林を活用したさまざまな体験・教育、6次産業化にも取り組んでおり、SNSを活用した情報発信を通して、地域の活性化に貢献しています。

3 令和2年度の各施策の評価

これまで順調に増加していた木材生産量や県産材製品出荷量、目標達成を継続していた森づくり活動参加者数が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて落ち込みました。林業の生産性や収益性の向上が課題となっていますが、森林の適正な整備・保全に関する施策は概ね順調に進んでいます。

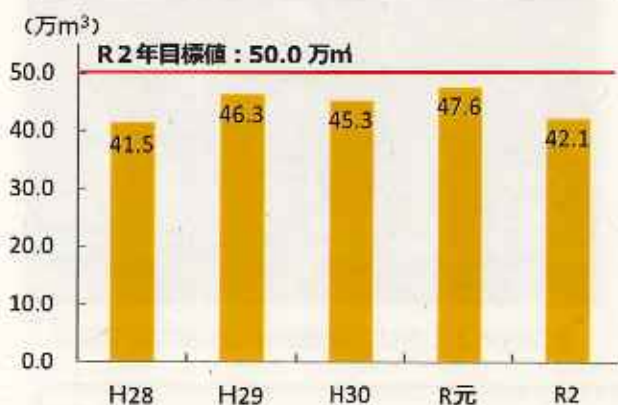
[基本方向1] 森林資源の循環利用による「森林との共生」 ～森林資源の循環利用による林業の成長産業化～

基本的な施策 1-1 県産材の安定供給体制の確立

指 標	実 績 () は速報値					目標
	H28	H29	H30	R 元	R2	R2
木材生産量 (万m ³)	41.5	46.3	45.3	47.6	42.1	50.0
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (km)	3,743	4,110	4,397	4,680	R3.9 公表	4,740
再造林面積 (ha)	88	155	157	158	R3.9 公表	320
優良品種 (リトクリ-) で発芽可能な種子の生産量 (万粒)	-	-	11	29	43	154
世界基準の認証取得森林面積 (累計) (ha)	58,285	64,864	66,798	71,059	(72,511)	67,600

木材生産量

42.1 万m³ [目標 50.0 万m³]



※目標の考え方

県内の人工林の年間成長量の約 5 割を基準に適正な木材生産量を算定。



航空レーザ計測データの活用 (藤枝市瀬戸ノ谷)

《評価》

「木材生産量」は、コロナ禍で木材需要が縮小し、森林所有者の伐採意欲が減退したことに加え、林業経営体が木材生産を伴わない保育間伐に転換したことが影響し、42.1 万 m³ と大幅に減少しました。50 万 m³ の目標達成と定着のため、林業経営体の減産体制からの早期回復を図るとともに、生産性の向上と森林資源の循環利用の取組を促進する必要があります。「世界基準の認証取得森林面積」は目標を達成していますが、SDGs や ESG 投資への注目の高まりにより今後見込まれる、森林認証材の需要増への対応が必要です。

《改善》

林業経営体の木材生産体制について、需要に応じた供給量に速やかに回復するよう、計画的な木材生産を働きかけます。また、航空レーザ計測などによる高精度森林情報の取得・活用や、ドローンやスマホアプリなどを活用した業務の効率化といった林業イノベーションをさらに進め、木材生産の効率を一層高めることで、低コスト主伐・再造林の取組を促進します。また、森林認証材の需要増に対応するため、生産基盤の整備などにより供給体制の強化を図ります。

基本的な施策 1-2 ビジネス林業の定着

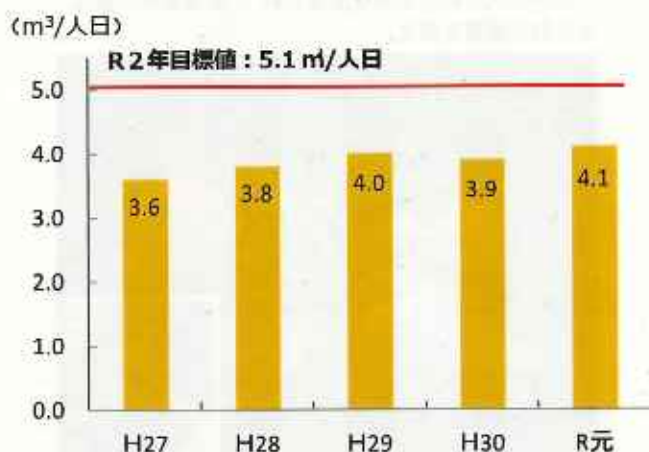
指 標	実 績					目 標
	H28	H29	H30	R 元	R2	R2
木材生産の労働生産性 (m ³ /人日)	3.8	4.0	3.9	4.1	R3.6 公表	5.1
ビジネス林業*の定着を図る事業体数 (累計) (事業体)	16	23	33	27	R3.6 公表	49
適正な森林管理を担う森林技術者 (林業作業士) 数 (累計) (人)	501	534	544	529	536	500
林業への新規就業者数 (人)	65	81	67	71	81	100

木材生産の労働生産性

(R 元実績)
4.1 m³/人日 [目標 5.1 m³/人日]

※目標の考え方

主伐・間伐により、森林所有者へ一定額の還元ができる労働生産性を目指す。



*ビジネス林業

需要に応じた計画的生産や、山元還元を増やす生産性の向上、需要者への直送販売を経営に取り入れ、安定的に木材を供給する林業経営。



生産性向上に向けた現地研修 (川根本町東藤川)

《評価》

「木材生産の労働生産性」は、年々向上しつつあるものの、目標に達しておらず、効率的な生産システムの導入や林業経営体の経営改革など、ビジネス林業の定着を一層進める必要があります。

「林業への新規就業者数」は、離職者数とほぼ同数であり、林業就業者の数は、ほぼ横ばいで推移しています。森林環境譲与税の創設に伴い、森林整備の増加が見込まれることから、若年層への働き掛けによる林業就業者の確保と、安心して働ける環境づくりを強化する必要があります。

《改善》

ICT等の新技術を活用できる人材の育成や林業経営体の経営改革などを進めます。

コロナ禍に伴う地方への移住の進行は、人材確保の好機であることから、移住者を含む就業希望者に対する相談窓口の機能を強化します。また、就業後のミスマッチ解消に向けた取組や林業経営体の社内安全ルール策定等を支援するなど、森林技術者の定着率向上を図ります。

基本的な施策 1-3 県産材製品の需要拡大

指 標	実 績					目 標
	H28	H29	H30	R 元	R2	R2
品質の確かな県産材製品出荷量(万m ³) (しずおか優良木材*またはJAS・JIS製品の出荷量)	9.1	10.3	10.4	10.6	9.7	10.7
公共部門の県産材利用量 (m ³)	20,641	22,852	21,765	21,602	21,170	21,000

*しずおか優良木材：品質・寸法・乾燥・強度について、定められた基準を満たしていることが認証された木材。

品質の確かな県産材製品出荷量

9.7 万m³ [目標 10.7 万m³]

※目標の考え方

50 万m³の県産材を製材加工した製品(23.8万m³)の約半分が「品質の確かな県産材製品」として供給されることを目指す。



すべての木材に県産森林認証材を使用した
粟ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス(掛川市東山)

《評価》

コロナ禍による住宅着工戸数の落ち込みなどに伴い、県産材需要の減退に直面したことから、「品質の確かな県産材製品出荷量」は、目標を下回っています。公共部門の県産材利用量は、県の施設整備や土木工事での優先利用などにより目標を達成しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、外国産材製品の輸入が滞り国産材も不足する一方で、新しい生活様式に合わせた住宅やオフィスの改修、地方移住や郊外への住み替えによる木材需要が増加しています。また、SDGs への意識の高まりなどから民間の非住宅建築物で木材利用が広がっています。こうしたことから、木材需要の拡大が見込まれ、この機を捉えて、県産材製品の利用拡大を図る必要があります。

《改善》

住宅・非住宅建築の県産材利用への助成を規模の大きなリフォームなどに対応するよう拡充し、しずおか優良木材などの品質の確かな県産材製品、森林認証材製品の利用を一層促進します。

また、非住宅建築で求められる構造用製材等の JAS 製品の供給体制強化や、県産材製品の新たな販路の開拓に取り組む供給者と需要者のマッチングを支援するとともに、SDGs 推進や ESG 投資に積極的な企業に県産材利用を働きかけます。

公共部門では、市町の建築・営繕担当者の理解を深める研修の開催など、公共施設の木造化・木質化を促進します。